



雨山山頂

この冬は、白川郷・知床流氷や香港などと山としては軟弱路線が続いたので、久しぶりに丹沢の雨山という質実剛健路線に行った。毎日新聞旅行としては珍しく、4日ほど前に“雪が深いことが予想されますのでアイゼンを用意して下さい。”という手紙が来た。そして待ち合わせ場所に行くと、昨年4月に大佐飛山でお世話になった西山さんが増田リーダーのサブとして来ている。彼は毎日新聞旅行



花岡師匠

の社員で、彼がサブということは難しい山であることが予想される。さらにバスの中での増田さんの話では、現地には名物男の花岡師匠も合流するというし、安全のためと称して各自にカラビナが支給されたし、西山さんは4日前にここの偵察山行も行っているという。カラビナを使うなどということは2003年のヒマラヤのヤラピーク以来のことである。香港でアスファルト道みたいなところを歩いてきたので、左足の踵付近が少し痛く、今日は大丈夫かなと不安になった。この日の毎日新聞旅行はやたら慎重で、沢を飛び石伝いに渡るところなどでは、丁寧に石を置いたり、リーダーが手を取ってアシストしたりしてやけに

親切である。標高が 800m を超えると雪も出てきた。2 月の関東豪雪に、一昨日の東京では雨であったものがこのあたりでは雪であったようで結構深い。そのうちにザイルを張ってカラビナを使うようなところが出てきた。まあそこまでやらなくたって、仮に落ちてでも死ぬようなことは無いだろうと思えるところでも、あくまで慎重である。雨山峠までに 3 箇所ほどザイルを張った。こんなとき



ルート工作をするリーダーたち



難所通過

の増田さんをはじめとするリーダーたちは頼もしい。メンバーが不安な気持ちにならないように、ジョウダンを言ったりバカ話をしたりしている。予定より時間を要したが雨山峠までたどり着いた。この先は雪が多かったが、道としてはさほど苦労することもなく雨山 檜岳と通過して、無事下山となったが下山時刻は 5 時になっていた。

下山口の寄木(やどりき)近くまで来ると、ミツマタの群落を迎えてくれた。久しぶりの山らしい山であった。



ミツマタの群落